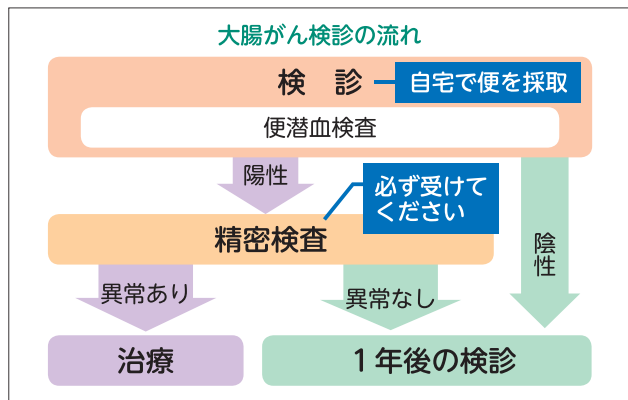


会員数	40,306	(前月比) +	85
郵送	9,168	(前月比) -	88
手配り	27,972	(前月比) -	843
協同基金到達額	2,585,126,000円(12/31現在) [前月比 30,780,000増]		
協同基金出資者数	21,279名(12/31現在)		
いのちを守る助け合い募金額	6,838円(12/1~31)		



発行
健康友の会 みみはら
民医連
本部事務局組織部
機関紙編集委員会
〒590-0821
堺市堺区大仙西町6丁184-2
Tel.072-244-8061
Fax.072-244-7860
1部30円

2月~3月は 大腸がん検診推進月間 自宅で簡単にできる便の検査



早く見つけて、早く治す

検診で異常が見つければ、必ず精密検査を

日本では毎年、13万人が大腸がんにかかり、5万人が命を落としています。みみはらグループの各事業所でも、2020年度(2020年2月~2021年1月)は9056人が大腸がん検診を受け、642人(7.1%)の方が精密検査が必要と診断され、317人(49.4%)が精密検査を受け、20人に大腸がんが見つかりました。

全国的な調査によりまずと、2021年度はがんに関する手術件数が減少傾向にあったそうです。要因は、がんの発生件数が減ったわけではなく、コロナの影響で検診を受ける方が減ったことによるものです。年に一回は必ず、がん検診を受けましょう。

大腸がん検診は、便に混ざっている目に見えない血液を顕微鏡レベルで調べる検査法です。2回の便で調べます。検査結果が、要精検・有症状の場合は、

必ず精密検査を受けてください。また、結果が陰性でも、便秘と下痢をくりかえす方や症状のある方は、精密検査

アイバーなどをぜひ、検討してください。大腸がんは、早期に見れば、多くの場合、負担の少ない内視鏡での

手術で治療が可能です。入院は2~3日程度、入院が必要でない方もいらっしゃると思います。早ければ早いほど、身体への負担と医療費の負担も少なくなります。

対象と費用
〈堺市民〉40歳以上は2022年3月末まで無料
〈高石市民〉自己負担500円
●それ以外の方は自費で、1,100円です。

大腸がん検診の受け方

1. お近くのみみはらグループの各事業所に、検査容器と問診票を取りに行ってください。
※取りに行けない方は、友の会事務局にご相談ください。
※定期受診されている方は、受診した際にスタッフにお声がけください。
2. 自宅で便を2日間採取。
3. 検査容器と問診票を医療機関に提出する。
4. 2~3週間後に検査結果が郵送されます。

詳しくは、健康友の会みみはら事務局まで
Tel 072-244-7260 fax 072-247-0165



「痔があるから、そのせいかも」「数年前にも精密検査したけど、なにもなかったし」「どこも体調悪くないし……」——大腸がん検診を受けて、要精密検査で結果が返ってきているのに、そのままにいませんか？

国立がん研究センターの統計によると、大腸がんは2019年のがん種別死亡数で女性1位、男性3位と上位を占めています。その一方、早期発見での5年生存率は90%以上となっており、早く見つ

自分の判断で放置せず 大腸がんの早期発見

け、治療することの大切さがお分かりいただけますか？

大腸がんは、「サイレントキラー」と呼ばれていて、初期がんの段階ではほとんど症状がありません。

(SMS)でのご連絡を強化しています。受診が遅くなればその分、がんが進行し、他の臓器への転移が進む可能性が高くなります。がんになる前の状態(腺腫)であれば、大腸ファイバーでの検査と一緒に切除するこ

とができ、がんを予防することが可能です。当院でも2020年1~3月の大腸がんキャンペーンで健診を受診された方、2113人のうち、45人の方に腺腫が見つかりました。がんの発見は4人でした。

堺市では、3月末まで7種類のがん検診が無料で受診できます。年度末になると混み合いますので、ご希望の検査・お日にちでの受診が難しくなります。受診がまだの方は、早めのご予約をおすすめします。

がでないこと有名です。そんな静かな体の変化を見つける第一歩が、堺市のがん検診でも実施されている便潜血検査です。

耳原総合病院健診センターでは、便潜血検査後に要精査が必要となった方へのお電話・ショートメッセージ

病院から着信があった。

聴診器

昨年末以後、米軍キャンプからコロナが広がっている。米国の出る際、兵士のPCR検査はない。入国数は日本政府にも知らされない。マスクなしで基地外行動も旅行も自由だから、一部は大阪へ来ているかもしれない。透き通る辺野古の海を平気で埋め立てる日米政府は、命も自然の大切さも認識できないのだらう。古代ギリシアのペロポネソス戦争、アテネで疫病(ペスト)が蔓延した。天然痘(天然痘)が猛威を振るった。約100年前のスペイン風邪(インフルエンザ)は、第1次世界大戦の軍の移動にもない、世界に広がり、兵士も市民も犠牲になった。そして今回、沖縄、岩国、横須賀の基地からのコロナである。なにが強い軍隊だ。筋骨逞しい兵士、強力な殺傷具といいかげんな感染対策とのズレをどう説明するのか。健康保持には、栄養のある食事と適度な運動、病気の早期発見・早期治療、感染症ならワクチン接種による予防、心身に加え、経済も安定が必要である。私たちが身体を気遣い、医療制度の充実を図るのは、戦争政策のテクトーサの対極にある。政府与党と維新の会がいう憲法9条の改定は、彼らに発議自体をさせないことが、戦争と感染から人々を守る大事な方策である。(和)